

クリーンエネルギー技術を

中国・インドに売り込め！

黒川 清 ● 政策研究大学院大学教授(元内閣特別顧問)

安 倍(晋三)総理の任期中、内閣特別顧問だった私は「二〇

五〇年までに食糧とクリーンエネルギーの輸出国になる」というビジョンを描いたペーパーを提出しました。役所の答えは「無理です」。二言目には「できない」と言うが、要はやるうとしないだけなのです。

やるうとしないのは、民間大企業も同じ。たとえば、世界のヒートポンプ需要は年間二二%伸びています。しかも、ヒートポンプを使った製品の九五%は「メイド・イン・ジャパン」。ならば、なぜこれを世界に売りに行かないのか。東京電力の役員に「インドの財閥を紹介するから、合弁会社つくって売りに行こう」と

言ったんだけど、どうも返事ははかばかしくない。

できないと言う前に、日本が誇る技術を最も必要としているところに売りに行くべきです。具体的にいえば、これから成長してくる巨大市場の中国やインド。日本人はどうしてそこに商売に行かないのでしょうか。クリーンエネルギーの巨大な市場があるのだから、官民一体で取り組みばいくらでも売れますよ。

確かに、日本の太陽光技術、省エネ技術はすばらしい。でも、ビジネスにならない限りは「自分たちの技術がいちばんいい」と胸を張ったところで、「だからどうした」です。

単なる部品や技術を売るのではなく、コンセプトや夢を世界に売る。「ものづくり」から「ものがたり」への転換。これこそが、今日本に求められていることです。

「五〇年までにクリーンエネルギーの輸出国になる」ことは不可能ではありません。できないと言っ前に、どう実現するのか考えて一歩を踏み出すべきなのです。

K.S.

(談)



Interview with Kiyoshi Kurokawa